

## タウンミーティング記録 未来に向けて 今、ここから

日 時 令和6年9月7日(土) 午後2時～午後3時30分  
場 所 清見自治会館（清見自治会）  
参加者 30人



### 主な意見等

参加者 ヤオコー前のおりで、イチョウの葉が伸びて電線を覆うように茂っており、大雨の際など電線に触れて揺れていて危険です。木が倒れてしまう可能性もあり、何かあってからでは遅いので、防災の観点からも対応をお願いしたいです。

市 長 街路樹や公園の樹木について一定期間での剪定などは行っていますが、その時期の天候等によって次の剪定の期間までに伸びすぎてしまうことがあります。担当課へ伝え、安全のためにも剪定の時期を早めるなど対応を進めてまいります。

参加者 市役所前の信号について、スクランブル交差点と認識されている方が一定程度いますが、実際は歩行者専用現示方式であり斜め横断はできません。しかし、横断時間が30秒程度しかなく、一方向ずつ渡っていると間に合わないことがあり、高齢者は仕方なしに斜め横断になってしまいます。実情として斜め横断をしている方が多いのであれば、スクランブル交差点に見直すことはできないのでしょうか。そうすることで、人の流れが安全になると感じています。

市 長 確かに意見をいただいたような実態が見受けられます。横断時間に

については、警察が交通量を制御するうえで計算しているものと思われ  
ますが、歩行者に不便をかけている現状については、改善を要求しな  
いといけません。市民との直接対話の場に出た意見となりますと、警  
察や県の公安委員会へ要望するにあたっても力強いものになると考  
えます。

参加者 信号の時間が短いという意見は、私も周囲から多く聞いています。  
自身の体が不調な際にも渡るのが大変で、ベビーカーを押した子ども  
連れが必死に渡っている姿も目にしています。横断時間の基準も不明  
なため、管轄部門に要望として伝えていただきたいです。

市 長 警察でも県道側とコミュニティ通り側の交通量を計算したうえで  
横断時間を定めていると想定されます。例えば、福岡中央公園とサン  
ドトラック前の信号は計算されて連動することで交通量を制御してい  
ますが、以前、その連動が乱れたために渋滞が発生しました。今回、  
市役所前の信号について横断時間の延長を検討することで、車の交通  
量の制御などいくつかの影響があると考えられます。また、警察の観  
点からは、時間がかかっても遠回りをして安全に横断してほしいと  
言われていますが、市としては歩行者優先の視点から、市民の皆様の  
要望につきましては、警察に積極的に伝え、利用しやすい交差点を実  
現したいと考えています。

参加者 年々、自治組織の会員数が減ってきています。清見は比較的新しい  
家が建つので、その都度自治組織の加入をお願いしていますが、なか  
なか理解いただけず、加入に繋がっていません。また、コロナ禍の影  
響も大きくあり、子ども会も活動ができていない状況です。

自治組織への加入を強制することが難しいことは理解していますが  
が、どうやって会員数を増やそうかを模索している状況です。特に若  
い世代の方については加入への理解をいただけず、役が回ってくるこ  
とへの負担感もあるようです。加入促進のため助言等あればいただ  
きたいです。

市 長 地域に暮らす方々が力を合わせて地域を運営していくのが主流な  
時代もありましたが、現在は地域で協力しあう姿勢が希薄になってき

てしまっています。また、自治組織に加入するメリットが伝わらないと言った意見も多く聞いています。実際、地域の方の見守りや行事をやっていただいているおかげで、子どもたちが安全に楽しく過ごしている場面が多くあることを発信していかなければならないと感じています。

平常時はもちろん、災害時についても、心苦しい部分ではありますが、職員自身も被災者になる可能性があり、ケガ等で登庁できない場合もあります。先日のタウンミーティングでは、今まで自治組織に加入されていなかった方から、被災地にボランティアに行った際、現場に自治体含め公的機関の職員はいなかったが、地域の方々だけで復旧復興のために活動されている姿を目の当たりにし、自治組織の必要性を再認識され、自身が加入されるとともに、加入促進のため市からも積極的に発信してほしいといった要望を受けました。市としても啓発品等は用意していますが、担当課が作成しているのぼり旗では会員が増えないといったお叱りの意見をいただいていることも事実であります。

自治組織に加入することがなぜ必要なのか、加入後すぐに感じられるメリットではなく、万が一の時の備えや日頃の地域を作るのは住人であるといったことを理解していただけるような伝え方を、自治組織連合会の皆様とも考え進めていかなければならないと感じています。そして、災害時等には自治組織単位で地域の皆さんに動いていただかなくてはならないことをPRする必要があると考えています。東日本大震災後も「災害に強いまちづくり」といったテーマでタウンミーティングを実施してきましたが、震災の際に長時間停電が発生した地域のマンションの管理組合から組合だけでは不安なため、自治組織を作りたいといった意見もいただきました。ほかにも事態が起きてからではなく事前の備えが大切だという認識が出てきています。

自治組織の加入促進事業に対する補助金も活用いただいているところではありますが、行政としても力を入れてまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

参加者 元福小学校に通う子どもが災害発生時の対応について学習しています。こうした学習の中で、実際に避難した際にどのような人がどういった対応をしてくれるのか、例えば、現場で動いてくれるのは市の

職員ではなく、地域の人が力を合わせていかなければならないなど、具体的に教えることが良いのではないのでしょうか。そこで子どもが家庭に帰って授業で感じた地域で協力することの大切さを共有し、自治組織の促進につながるような施策を検討いただきたいと考えています。防災訓練も自治組織に入っていない方はほとんど参加していないため、大人向けだけではなく子ども向けに自治組織の大切さを伝えることを行っていただきたいと思います。

市長　　子どもの頃から自治組織の大切さを教えていくのは非常に重要であり、さらに、それを子どもから保護者に話すことで自治組織の必要性を認識いただくことも大事だと思います。地域のつながりが希薄になっている現状について、学校教育に関わる部分もあると感じています。東日本大震災の際も釜石の奇跡と評されていますが、大学教授が三陸地震や津波の危険性を大人に伝えても伝わらなかったものを、学校で講演を行うなど子どもに直接教育することで、震災の際に大人からの指示がなくとも子どもたちで助け合い高台に避難し救われた状況がありました。

子どもたちに学習してもらうことで、すぐに自治組織への加入に繋がらなくても、今後子どもたちが成長したときに良い地域が実現できるのではないかと考えます。教育委員会とも調整し、現在行っている学習内容に加え、地域力の大切さを伝えられるような防災教育をしていきたいと思っています。

参加者　　北野地区に在住です。自身は自治組織に加入していませんが、孫が元福小学校に通っているため必要性を感じているところではあります。

ゴミ対策について、カラスにごみがよく荒らされています。掃除は近所の方が善意でやっただいてくださっているようですが、本来は順番でやるべきではないかと感じています。また、カラス対策について基本的にはネットをしっかりとかける等になるとは思いますが、近々市に相談に行こうと思っています。

また、元福岡地域の調整池について、近隣に複数あるため効率的な検討・設計ができないものかと思っています。また、調整池周りを散歩コースにしている人も結構いるので、本来の目的とは異なると思

ますが、トイレが設置されていればなおいいのではないかと感じます。

市長 お住いの地域では、居住されている地区で班が作られており、その班内で順番に掃除など担当していると伺っています。ぜひ自治組織に加入いただき、一緒に担当していただければありがたいと思います。

また、カラス対策について、市内全域で害があることは承知しています。しかし、カラスは鳥獣保護法により退治できないため、市はカラスが見えにくい黄色のネットを配っています。地区によってゴミ出しの場所がさまざまであるためネットの設置方法など一概には言えません。各地区でネットにおもりを付けるなど様々な工夫をいただいているところです。

調整池につきましては、当初設置した寺尾調整池は新河岸川の流入のため設置し、新河岸川は一級河川のため埼玉県管理になっています。現在建設しているのは、行政境を流れる川越江川の都市下水路用であり、市町村の管轄であり県は関与しないため、川越市と本市で国の補助金を活用しながら設置しているところです。また、水害対策として設置した調整池を有効に活用できるよう遊歩道的にしているため、トイレの設置について現状は難しいと考えます。しかし、そこで健康づくりがされているといった視点で見れば、埼玉県が理解を示す可能性もあるかもしれません。

市内の上流部から出た生活排水や雨水が川越江川に流れています。調整池は市として税金を使い、市の皆様で下流部の水害を軽減しているという思いから設置しているものであることを、理解いただきたいと感じます。

参加者 ゴミの収集運搬をしている業者に伝えていただきたいのですが、分別が不十分な状態でゴミが出されていることがあり、間違えて持っていかないよう、わかりやすく外に出したりもしましたが、一緒に回収されてしまいました。車の往来もあるため、短時間で片付けなければいけないことも理解できますが、分別は必要だと感じます。誰かが指摘すると角が立つため、不分別のごみは回収せず、赤紙を貼るなどして、出した人が間違いに気付けるようにしてほしいです。

市長 他の地域でも同様の意見をいただいています。道幅が狭いことや、時間が限られていること、また、残して帰ることにより他の車が踏んでしまう等の被害もあるためやむを得ず回収しているようです。

住民の方同士で指摘いただくとトラブルになる可能性もあるため、市として「出す日が異なります」「混在して出さないでください」など指摘するステッカーを担当課でも検討し、それを貼って回収しないことも考えていますが、それでもごみを出した人が持ち帰らず、貼られたまま置きっぱなしになってしまうとそれも問題かと感じます。

また、外国人が間違えて出してしまうケースも多くあるようですので、多言語に対応しているゴミ出しアプリも作成しています。

業者もやむを得ず回収している部分がありますが、教育的指導の観点からも分別は指導していきたいと考えます。

参加者 不適切なゴミ出しに警告文を貼ったこともありますが改善されず、同じように出していく人がいます。おそらく自治組織に加入していない人だと思います。組織に加入すればそういった行いはしないとしますので、こういった部分も含めて、自治組織への加入促進をしていただきたいと思います。

市長 地域の皆様にまちをきれいにしていこうといった意識が芽生えれば、不適切なゴミ出しをする人も減るのではないかと思います。お忙しい中、警告を出していただいていることには感謝申し上げます。市としても担当課へ伝え、環境行政について改めて考えていきます。